

News Source

## 学生選書プロジェクト 選書ツアー開催!

大学図書館は、学生や教職員が学習や研究をするための施設なので、所蔵する資料のほとんどが、学術・研究に関するものになります。ですが近年、その様相は少しずつ変わりつつあります。それは、読書の場として、また感性を磨き知的好奇心を満たす場としての大学図書館というものを、利用者が望むようになってきたからです。

学生選書プロジェクトはそんな要望が形になった企画です。3年前より開始したこの学生ボランティアスタッフによる選書活動は、多くの利用者の共感を呼び、読書に興味を持つ場としての可能性を図書館に与えてくれました。それまで収蔵されなかったような、現代小説や歴史小説、そしてノンフィクションなどの資料が閲覧室に並び、利用者の反響を得ることで、私たち図書館職員も多くのことを気づかされました。

昨年夏、この学生選書プロジェクトの新企画として、“選書ツアー”を実施しました。これは、学生スタッフが直接書店に行き選書をおこなうものです。これまでのように購入希望リストを元にして選書するのではなく、書店で現物の資料を確認しながら選書することで、学生の要望がより直接に反映し、また購入冊数も飛躍的に増やせるのではないかと考えました。

選書ツアーは7月に第1回を実施し、続く11月と12月の計3回実施しました。毎回10～15名程度、それぞれ1年生から大学院生まで幅広い層の学生が参加しました。2人1組でチームを組み、それぞれ3万円以内の購入予算で資料を選びます。現地での選書は、直接現物資料を比較しながらの討論ができたり、同分野の資料が一箇所に並んでいるので派生して別の資料を確認できるなど、実施前には

思ってもみなかった利点が多々ありました。ツアー後に行われた参加者による意見交換会では、「皆で大量の本を購入するという経験自体が初めてで、非常に楽しかった」との意見が大勢を占めました。この3年間で学生選書プロジェクトで購入した資料は合計で約1000冊になりますが、そのうち選書ツアーでの資料は413冊と、およそ5分の2を占めるようになりました。

若者の読書離れが問題視されていますが、学生選書プロジェクトコーナーの盛況を見ると、必ずしも単純に言い切れないものがあります。興味を引く資料が目前にあれば、学生は自然と手にとって読んでみたいと思うのです。このように、学生を読書の水際まで導くという点で、学生選書プロジェクトや選書ツアーは、当初の予想を超える成果をあげているといえます。しかし学生選書プロジェクトによる資料と、従来から図書館で購入を続けている学術資料とでは、内容に大きな隔たりがあり、同じ本館の図書でありながらそれらの関係性が希薄になってしまっていることが問題として残ります。学生選書プロジェクトの資料によって、読書の楽しみや知的好奇心を得る楽しみを知った学生が、やがては学術書へと導かれるような、そんな取り組みを計画することも今後の大きな課題といえるでしょう。

最後に、この企画を実施するにあたり、多くの有益なアドバイスをいただきました神戸学院大学図書館の皆さま、また実際のノウハウを教えていただきました株式会社ジュンク堂書店京都支社の皆さま、それぞれの助言なくしては今回の企画の成功はありえませんでした。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

学生選書プロジェクト担当 重松康希